

#### 令4 中学校・高等学校国語（7枚のうち1）

（解答はすべて、解答用紙に記入すること。なお、字数指定のある場合は句読点等の記号を一字と数えることとする。）

一次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。（本文には一部表記を改めたところ及び省略したところがある。）

著作権保護の観点により、本文を掲載いたしません。

## 令4 中学校・高等学校国語（7枚のうち2）

（解答はすべて、解答用紙に記入すること。なお、字数指定のある場合は句読点等の記号を一字と数えることとする。）

### 著作権保護の観点から、本文を掲載いたしません。

（中屋敷均『科学と非科学』）

問一 傍線部②、④、⑥、⑦、⑩の片仮名を漢字に書き改めなさい。

問二 傍線部①「峻別し」、傍線部⑨「美辞を弄し」の意味を、それぞれ次のア～オから一つ選んで、その符号を書きなさい。

- ① ア 嚴重に区別し                   イ わかりやすく区別し                   ウ 無理やり区別し                   エ 丁寧に選別し                   オ 素早く選別し
- ⑨ ア こじつけを言い                   イ 嘘をならべ                   ウ 言葉を尽くして説得し                   エ 巧みな文句をあやつり

問三 傍線部③における「困難さ」の説明として最も適切なものを、次のア～オから一つ選んで、その符号を書きなさい。

- ア 専門家でも科学的知見の情報精度を判断することは難しく、専門的知識のない非専門家には到底判断ができないということ。
- イ 専門家が科学的知見をデータ化し、その信頼度によって分類しても、非専門家にはそのデータの意味が理解できないということ。
- ウ 専門家は科学的知見の情報精度を判定する基準を示すことができるが、非専門家にはその基準が適切かどうかかわからないということ。
- エ 科学的知見に対する専門家の意見は、多くの仮説のうちの一つに過ぎず、非専門家にはその優劣が判断できないということ。
- オ 専門家を越える判断をするには、科学的知見の客観的なデータを集める必要があるが、非専門家にはその能力がないということ。

問四 傍線部⑤と同じ内容のことばを、本文中から二十五字以上三十字以内で抜き出し、最初と最後の三字を書きなさい。

問五 傍線部⑧の説明として最も適切なものを、次のア～オから一つ選んで、その符号を書きなさい。

- ア 非専門家らの無知に由来する批判を科学の専門家たちが封じ込めることで、人々がその権威に従属することしかできなくなる。
- イ 権威のある科学の専門家が科学をわかりやすく解説することで、わからないことで不安になる人々から絶大な支持を得ている。
- ウ 人々が不安から逃れたいという思いで科学の専門家の言葉を検討もせずそのまま信じることで、科学の権威が高まっていく。
- エ 無知の不安から人々が権威にすがること、権威ある科学の専門家の知見は確度が高い、さらにその権威が高くなっていく。
- オ 「科学的な根拠」を示すことで権威を手に入れた科学の専門家が、信じるものがない不安な人々たちにとって特別な存在となる。

問六 傍線部⑩の理由を説明した次の文章の空欄Aに入ることばを八字で、空欄Bに入ることばを六字で、本文中からそれぞれ抜き出して書きなさい。

A が傷つけられることを恐れる権威主義者は、 B を認めることができないから。

問七 傍線部⑫とはどういう姿か。「先入観」と「理性」ということばを使って、解答欄に合うように八十字以内で書きなさい。

#### 令4 中学校・高等学校国語 (7枚のうち3)

(解答はすべて、解答用紙に記入すること。なお、字数指定のある場合は句読点等の記号を一字と数えることとする。)

二 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。(本文には一部表記を改めたところ及び省略したところがある。)

著作権保護の観点から、本文を掲載いたしません。

## 令4 中学校・高等学校国語（7枚のうち4）

（解答はすべて、解答用紙に記入すること。なお、字数指定のある場合は句読点等の記号を一字と数えることとする。）

### 著作権保護の観点から、本文を掲載いたしません。

（高橋昌男「夏草の匂い」）

- 問一 傍線部②、③、⑥、⑦、⑨の漢字を平仮名に書き改めなさい。
- 問二 空欄①に入ることばを、次のア～オから一つ選んで、その符号を書きなさい。
- ア 不思議な    イ 滑稽な    ウ 清々しい    エ 崇高な    オ 無惨な
- 問三 空欄④に入ることばを、次のア～オから一つ選んで、その符号を書きなさい。
- ア 失望する気持ち    イ すまないと思う気持ち    ウ 恐ろしく思う気持ち    エ 投げやりな気持ち    オ 愉快的気持ち
- 問四 傍線部⑤とあるが、このときの康之の心情として最も適切なものを、次のア～オから一つ選んで、その符号を書きなさい。
- ア 自分が諍いの原因でないことを確認し、本当の原因を聞き出したいと思う気持ち。  
イ 伯母との不仲にこだわり、自分のことを考えてくれない母親を責める気持ち。  
ウ 母親と二人で出かけることに喜びを感じ、優しい母親の態度に甘える気持ち。  
エ 母親の気持ちに寄り添うことで、自分だけには本心を話してほしいと思う気持ち。  
オ けんかの理由は聞きたくないが、母親のためを思うと聞かずにいられない気持ち。
- 問五 傍線部⑧とあるが、その理由を「～から」に続くように、七十字以内で書きなさい。
- 問六 傍線部⑩とあるが、このときの母親の説明として最も適切なものを、次のア～オから一つ選んで、その符号を書きなさい。
- ア 康之が母とピクニックに出たことを伯母に気兼ねしていると考え、今日は伯母に気を遣わず自由に楽しめば良いと優しく言っている。  
イ ご馳走が突然出てきたことで康之が生活に不安を感じていると察し、母はまだまだ働けることを若々しい動作で示そうとしている。  
ウ 康之が母の行動をいぶかしみ不幸な未来を予感していると思ひ、康之が純粋にピクニックを楽しめるように自ら遊びに誘っている。  
エ 父の墓に来たことで康之が父を思い出し落ち込んでいると考え、康之を元気づけるためにわざとおどけた表情をつくり話している。  
オ 母が自分の前から消えようとしていることを康之が知ったことを察し、康之を傷つけないように普段通りに振る舞おうとしている。
- 問七 傍線部⑪の説明として最も適切なものを、次のア～オから一つ選んで、その符号を書きなさい。
- ア ジャンケンにわざと負けて父の墓前から動こうとしない母親の姿から、康之は母が父の後を追おうとしていることに気づいたため、大きな声で呼びかけることで、母親に再び生きる気力を与えようとしている。  
イ 康之はジャンケンポンと声に出すたびに父親の墓から自分が離れていっていることに気づき、このままだと両親ともに失い一人で生きていくことになるかと悟り、強くならなければならないと自分に言い聞かせている。  
ウ ジャンケンを重ねるごとに開く自分と母親との距離が、二人の気持ちの隔たりのように感じたので、今まで母親の気持ちを理解しようとしなかった自分を反省し、これからは母親に優しくしようと思っている。  
エ 康之は自分がジャンケンに勝ち続けたことよって離れた母親との距離が、二人を永遠に隔てる距離のように思えて心細くなったため、母親を勝たせて距離を縮めたいと思ひ、たわいもない遊戯に必死になっている。  
オ ジャンケンをするたびに自分が母親を残してとんとん前に進んでいることから、自分と母親との別れが近いことに気づいた康之は、込み上げる悲しみを母親に気づかれまいと、わざと楽しげに振る舞っている。

## 令4 中学校・高等学校国語（7枚のうち5）

〔解答はすべて、解答题紙に記入すること。なお、字数指定のある場合は句読点等の記号を一字と数えることとする。〕

三 次の古文を読んで、あとの問いに答えなさい。

鳥羽宮、天王寺別当にて、彼の寺の五智光院に御座ありけるとき、鎌倉前右大将参ぜられたりけり。三浦十郎左衛門義連・梶原景時ぞ共には侍りける。御対面の後退出の時、厄弱の尼一人いできたり、右大将に向かひて、ふところより文書を一枚とりいだして云はく、「和泉国に相伝の所領の候ふを、人におしとられて候ふを、沙汰し候へども、身の厄弱に候ふによりて事ゆかず候ふ。適、君御上洛候へば、申し入れ候はんと仕り候へども、申しつく人も候はねば、ただちに見参に入り候はんとて、まゐりて候ふ。」とて、その文書をさ、げたりければ、大将みづからとりて見給ひけり。「文書のごとく、一定相伝の主にてあるか。」と問はれければ、「いかでか偽りをば申しあげ候ふべき。御尋ね候はんに、さらにかくれあるまじ。」と申しければ、義連に「硯たづねてまゐれ。」と仰せられて、尋ね出してまゐりたりければ、墨をすりて筆染めて、うちあんにて、わがもち給ひたりける扇に一首の歌を書き給ひける、

いづみなるしのだの杜のあまさぎはもとのふるえに立ちかへるべし

かく書きて、義連に、「これに判くはへて尼にとらせよ。」とて、なげつかはしたりければ、義連判くはへて尼にたびてけり。年月日にもおよばず、右大将殿自筆の御書下しなれば、子細にやおよぶ、もとのごとく彼の尼領知しけるとて。その後右大臣家の時、件の尼がむすめ、この扇の下文をさ、げて、沙汰に出でて侍りけるに、年号月日なきよし奉行いひけれども、彼の自筆そのかくれなきによりて、安堵しにけり。件の扇、檜の骨ばかりはゑりて、そのほかは細骨にてなん侍りける。まさしく見たるとて人の語り侍りしなり。

〔橘成季『古今著聞集』  
（注）鳥羽宮——後白河天皇皇子。定憲法親王。 鎌倉前右大将——源頼朝。 厄弱——ひよわいさま。 右大臣——源実朝。  
あまさぎ——鷲の一種。〕

問一 傍線部②「ね」、④「べき」、⑧「し」の助動詞の活用形を書きなさい。

問二 傍線部③「ただちに」の意味を書きなさい。

問三 傍線部⑤「わ」は誰のことを指すか。その人物として適切なものを、次のア～オから一つ選んで、その符号を書きなさい。

ア 尼 イ 前右大将 ウ 義連 エ 景時 オ 筆者

問四 傍線部のX「侍り」、Y「候ふ」、Z「たび」について、それぞれの敬語の種類を、次のア～ウから一つ選んで、その符号を書きなさい。

ア 尊敬語 イ 謙譲語 ウ 丁寧語

問五 傍線部①を具体的な内容を補って現代語訳しなさい。

問六 傍線部⑥の意図を説明した次の文の空欄A・Bに入ることばを、それぞれ五字以上十字以内で書きなさい。

A に判を加えて尼に与えることで B という意図。

問七 傍線部⑦の内容として適切なものを、次のア～エから一つ選んで、その符号を書きなさい。

ア 役人は、書類に肝心の日付が漏れていることをもって娘を責めたが、書類の筆跡が尼のものであることは誰の目にも明らかだったので、娘は動じなかった。

イ 役人は、扇に肝心の日付がないことで娘の言い分を認めてやれないのではないか心配していたが、誰もが扇の文字を右大臣の字であると疑わなかったので安心した。

ウ 役人は、書類に証拠となる日付がないことを問題視していたが、娘に土地を相続させるために自ら難しい書類を作成した尼の心根をいじらしく思い、不問に付した。

エ 役人は、証拠となる日付がないことにより娘の言い分を疑ったが、扇に書かれた文字が前右大将の自筆であることは明らかだったので、娘の言い分は認められた。

## 令4 中学校・高等学校国語（7枚のうち6）

（解答はすべて、解答题紙に記入すること。なお、字数指定のある場合は句読点等の記号を一字と数えることとする。）

四 次の漢文を読んで、あとの問いに答えなさい。（設問の都合上、一部訓点を省略したところがある。）

貞観十五年、太宗謂侍臣曰、「守天下難易」侍中魏徵对曰、「甚□。」太宗曰、「任賢能、受諫諍、則可。何謂為難？」徵曰、「觀自古帝王、在於憂危之間、則任賢受諫。及至安樂、必懷寬怠。恃安樂而欲寬怠、言事者、惟令兢懼。日陵月替、以至危亡。聖人所以居安思危、正為此也。安而能懼。豈不為難。」

（注）太宗——唐朝の第二代皇帝。

魏徵——初唐の功臣。

（呉兢『貞観政要』）

問一 波線部A、Bの漢字の読みを現代仮名遣いの平仮名で書きなさい。

問二 本文中の空欄に入れるのに適切なことばを本文中より一字で抜き出して書きなさい。

問三 傍線部①は「あんらくにいたるにおよびては」と訓読する。この読みになるように、解答欄に訓点を施しなさい。

問四 傍線部②と反対の意味として用いられていることばを、本文中より四字で抜き出して書きなさい。

問五 傍線部③とはどのような者か。十字以内で書きなさい。

問六 傍線部④を書き下し文にしなさい。

問七 傍線部⑤の口語訳として適切なものを、次のア～エから一つ選んで、その符号を書きなさい。

ア どうして困難だと言えるでしょうか、いや困難であるはずがありません。

イ どのような困難でも、必ず克服できないものではありません。

ウ どうして困難を克服しようとするのか、いや克服しようとするべきです。

エ どうして困難でないと言えましようか、いやとても困難なことです。

問八 本文の内容として最も適切なものを、次のア～エから一つ選んで、その符号を書きなさい。

ア 国を平定した後の君主は内政を充実させることに力を注ぐため、他国からの侵略に対し備え続けることが難しくなり、国が滅亡の危機にさらされることになる。

イ 国内が平和になると、君主は自分に意見する家臣の存在が疎ましくなりその言葉を聞き入れなくなるため、国民が君主の独裁的な支配にさらされる危険が生じる。

ウ 国が平穏であると君主の危機感は薄れ、君主の過ちを指摘するべき家臣もその顔色を伺って何も言わなくなるため、気がつかないうちにその平穏が乱される事態となる。

エ 国民が安らかに生活できるようになると、国民の支持を得ている君主の政治を皆が褒め称え反対意見を言うことが難しくなるため、政治が停滞し国は衰退していく。



令4 中学校・高等学校国語模範解答（7枚のうち7）

問一	②	提唱	④	業績	⑥	⑦	⑩	⑪	瓦解
問二	①	ア	ア	オ	オ	オ	オ	オ	倒錯
問三		ア							
問四		権威の	ウ	やり方					
問五		ウ							
問六	A	自分が信じ							
問七	様々な個性	持った価値	科学の可塑性	先入観なくあるがままに見て、自己					
問七	説を生まみ出し、次の世界を担っていく	その意味や仕組	が、物事を考	え入観なく、あるがままに見て、自己					

一 60点

問一	②	ほこりっぽい	⑤	みにくく	⑥	⑦	⑨	しょうろう
問二		オ						
問三		イ						
問四		ア						
問五	ピクニック	で墓地に行	くとい	母の精神状態	が心配にな	ったが、母		
問六		ウ						
問七	エ	れざるをえな	かつた	から。				

二 50点

問一	②	已然形	④	連体形	⑧	連体形
問二		直接(に)				
問三		イ				
問四	X	イ	Y	ウ	Z	ア
問五						
問六	A	扇に書いた	和歌	B	尼の所領を保障する	
問七	エ					

三 50点

問一	A	すなわち	B	しかも
問二		難		
問三	及 <sub>レ</sub> 至 <sub>ル</sub> ニ	安 <sub>ニ</sub> 樂 <sub>一</sub> 、		
問四	憂危之間			
問五	君主を諫める者			
問六		惟だ兢懼せしむ。		
問七	エ			
問八	ウ			

四 40点